

# 大気浮遊じんの放射能濃度測定結果

問合せ 生活環境課 ☎24-5231

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内10地点で収集した大気1m<sup>3</sup>あたりの放射性物質の濃度を測定しました。

測定地点		放射能濃度 (mBq/m <sup>3</sup> )		
		5/29-6/5	6/5-12	
小高区	川房公会堂 (川房)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.099	0.021
	金房小学校 (飯崎)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.120	0.034
	塚原公会堂 (塚原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.038	0.017
原町区	横川ダム (馬場)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.130	0.062
	原町保健センター (小川町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.078	0.017
	高平生涯学習センター (下高平)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.120	0.017
	市立総合病院 (高見町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.076	0.030
	大原公会堂 (大原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.097	0.046

測定地点		放射能濃度 (mBq/m <sup>3</sup> )		
		5/29-6/5	6/5-12	
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.055	0.023
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.025	不検出

※検出限界値はおおむね0.02~0.03mBq/m<sup>3</sup>の範囲にありますが、測定サンプル毎に変動します。そのため、データの記載がない日は、放射能濃度が検出限界値未満の値であり「放射能不検出」と判定されます。

● 渡邊正己 京都大学名誉教授  
(市放射線健康対策委員会委員長)による解説●

第111回目  
大気浮遊じん放射能測定結果の解説  
(2018年5月29日～2019年6月12日)

今回観測されたセシウム137濃度は、平均0.06mBq/m<sup>3</sup>で健康影響を心配することはありません。前回で原子は、陽子と中性子が結合して原子核を形成し、その周囲を電子が飛びまわる構造であると説明しました。陽子が1個の元素は中性子の数に関係なく全て水素です。陽子が6個の元素は全て炭素になります。このように陽子の数とその元素の種類を決定します。原子核が出来た時に陽子と中性子の数のバランスが悪いとその原子核はエネルギー的に不安定になることから、安定させるために原子の構成成分の一部を核外へ放出します。この過程で元素の構成成分の陽子、中性子、電子とそれらを結合させていた結合エネルギーがガンマ線やX線として核外へ飛び出てきます。それらが放射線と呼ばれるものです。